

1 全体概要

- ワールド・フード・インディア2017(2017年11月3日～5日:WFI)の機会に官民ミッションを派遣。WFIでは、ジャパン・パビリオン等において日本の高品質な飲食料品や、日本企業が有する高い技術力とノウハウをアピールし、インド食関連事業者等から高い関心が示された。
- また、11月6日には、インド・農業・農民福祉省との覚書に基づく第1回日インド官民合同作業部会を開催。農業協力を含めたインドにおけるフードバリューチェーン構築等について議論。

2 WFI(2017年11月3日～5日)

- インド既進出企業に加え、インドへの輸出・進出に関心のある日系企業が約55社出展。(参加国中最大規模)
- 農林水産省からは谷合農林水産副大臣が出席し、モディ首相に表敬するとともに、バダル食品加工大臣やシェカーワト農業・農民福祉副大臣と会談したほか、多くのインド側政府要人との表敬を実施。
- ジャパン・パビリオンには多くの来場者があり、飲食料品のサンプルやカタログが直ちになくなるなど大盛況。また、ジャパン・セッションを開催したところ、多くのインド食関連事業者等が日本企業が有する技術の高さに深い関心を示していた。

3 第1回官民合同作業部会(2017年11月6日)

- 第1部(政府間対話):インドにおけるフードバリューチェーン構築等について議論し、インド側からは、生産性の向上、食品加工、漁業の3分野について協力を期待する旨の発言。
- 第2部(官民合同会議):日本側からは、行政手続の簡素化等、日本企業の要望を紹介し、インドにおける投資環境の整備を要請。加えて、日本企業のインドでのビジネスプランや高い技術力等について説明。また、インド側からは、コールドチェーンの現状や、国や州政府の投資支援策等について説明。

出席者

日本側:池淵農林水産省大臣官房審議官他、在インド日本国大使館、JICA、(以下、第2部のみ)アイスバッテリー、ANEW Holdings、イセ食品、オメガスリーリミテッド、オリエンタル酵母工業、カゴメ、シブヤ精機、チョーヤ梅酒、千代の園酒造、東洋製罐、西野ソリューション、豊田通商、日産スチール工業、日本工営、日印国際産業振興協会、日本冷蔵倉庫協会、HASORA Organic India、マルト製菓、みずほ銀行、レストラン富士、伊藤忠、双日、ユークリッド・エージェンシー

インド側:農業・農民福祉省、食品加工省、ナショナル・コールドチェーン開発センター、食品安全基準局、アンドラ・プラデシュ州、マハラシュトラ州、(第2部のみ)インド企業10社

インドへの官民ミッション派遣(平成29年11月)②

4 参加者ヒアリング結果(概要)

【WFI】

- 既にインドに進出し、ビジネスを展開しているが、小売業者や卸業者と新たな関係を構築できた。
- 日本茶が人気であり、シンガポールと同程度以上の値段をつけたが、売れ行きは好調であった。
- これまでの見本市で一番手応えがあった。大きな商談話もある。
- 東京の展示会に出展するのと同程度の反応があった。ホテルのサプライヤーやAmazon Indiaのサプライヤーから商談があった。
- 大反響で用意したカタログ等も全てなくなった。
- 今回の出展でバイヤー等とコネクションを作ることができた。

【官民合同作業部会】

- 連邦政府や州政府の投資支援スキーム等、これまで入手が難しかった情報を得られる素晴らしい機会であった。(参加企業から同旨コメント多数)

